

第 18 回「理学療法ジャーナル賞」授賞式開かれる

準入賞に成田寿次氏 奨励賞に西田裕介氏、西村由香氏

第 18 回「理学療法ジャーナル賞」授賞式が去る 4 月 14 日、医学書院会議室で開かれました。理学療法ジャーナル賞は、医学書院発行「理学療法ジャーナル」誌に 1 年間に掲載された投稿論文の中から優秀論文を編集委員会が顕彰し、理学療法士の研究活動を奨励するものです。昨年(2006 年)は総投稿数 107 本のうち 16 本が掲載となり、受賞論文は下記 3 論文となりました。

〔準入賞〕成田寿次・他(東京都板橋ナーシングホームリハビリテーション室)「片麻痺症例の歩行自立の判定に関する functional reach の有用性」(第 40 巻 9 号掲載)

〔奨励賞〕西田裕介・他(聖隷クリストファー大学リハビリテーション学部理学療法学専攻)「施設入所高齢者に対する 12 週間の低強度運動負荷トレーニングプログラムの効果—自律神経活動、運動機能に及ぼす影響」(7 号掲載)、西村由香(北海道文教大学人間科学部理学療法学科)「自覚的視性垂直位検査装置の開発とその信頼性」(8 号掲載)

* * *

授賞式では、医学書院から賞状・賞金が受賞者に手渡され、続いて編集委員会を代表して網本和氏が講評を述べられました。

準入賞の成田論文は、臨床的によく用いられる functional reach の意義について 87 例という多数の片麻痺症例について分析した研究であり、簡易な指標によって歩行自立度判定が可能であることを示した点が優れていると評価されました。今後は、運動麻痺重症度を層別化した群での検討、縦断的分析などいっそうの研究の進展が期待される点を含んでの「準入賞」です。



●西村由香氏、成田寿次氏、西田祐介氏

奨励賞の西田論文は、自転車エルゴメータを用いた低強度のプログラムをランダムに分割した 9 名ずつの群を対象としてその効果を検討したものであり、自律神経活動と運動機能の双方に効果的であることを示した論文です。研究デザイン、論文構成が評価されました。

もう 1 つの奨励賞の西村論文は、バランス障害に関係する自覚的視性垂直位測定に関して、従来の方法の問題点を考慮した検査装置を作成し、健常者と片麻痺症例での測定信頼性を検討したものであり、その装置の有用性が評価されました。

「全体として今回の 3 名の先生方は、いずれも臨床的視点を研究に反映させる努力が伝わるものであり日々理学療法を施行している現場に、貴重な示唆をもたらすものと感心いたしました。これを契機として今後の臨床研究活動のますますのご発展を期待します」と網本氏は、受賞者にさらなる研究を奨励する言葉で講評を締めくくられました。

* * *

本年も 12 号までに本誌に掲載された論文のなかから第 19 回理学療法ジャーナル賞が選ばれます。読者の皆さまからの活発なご投稿をお待ちしております。